



Title	インドネシアの芸術家集団アート・コレクティブによる社会改善活動の影響力
Author(s)	
Citation	令和5（2023）年度学部学生による自主研究奨励事業 研究成果報告書．2024
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/95159
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

令和5年度大阪大学未来基金「学部学生による自主研究奨励事業」研究成果報告書

ふりがな 氏名	ちえ じす CHAE JISU	学部 学科	外国語学部 外国語学科	学年	3 年
ふりがな 共同 研究者氏名	くめ よしゆき 久米 良征	学部 学科	外国語学部 外国語学科	学年	3 年
					年
					年
アドバイザー教員 氏名	菅原由美	所属	人文学研究科外国学専攻		
研究課題名	インドネシアの芸術家集団アート・コレクティブによる社会改善活動の影響				
研究成果の概要	研究目的、研究計画、研究方法、研究経過、研究成果等について記述すること。必要に応じて用紙を追加してもよい。(先行する研究を引用する場合は、「阪大生のためのアカデミックライティング入門」に従い、盗作剽竊にならないように引用部分を明示し文末に参考文献リストをつけること。)				

研究目的

この研究では、インドネシアの首都ジャカルタ（ジャワ島）と地方都市パダン（スマトラ島）において、芸術家集団アート・コレクティブ（以下コレクティブ）の活動について調査し、彼らの活動によって生じた芸術家集団内部及び周辺地域社会的変化と方向性を明らかにする。特に、活動の目的合致性、継続性、社会参加の規模、社会の支持について注目する。その際、首都と地方都市を比較することによって、全国的に広まっているコレクティブの地域的・規模的差異についても調査する。

研究方法：現地調査

- ・ 日程：2023 年 8 月 20 日～9 月 1 日（8 月 20 日～26 日ジャカルタ、8 月 27 日～31 日パダン）
- ・ 場所：ジャカルタ及びパダン（インドネシア）
- ・ 調査方法・内容：以下の2グループを対象にインタビュー調査、資料収集
- ・ 対象コレクティブ
 - ① セルム serrum：ジャカルタにて 2006 年に結成。教育的かつ芸術的なプレゼンテーションのアプローチを用いて、教育、社会政治、都市の問題に焦点を当て、アート プロジェクト、展示会、ワークショップ、ディスカッション、創造的なプロパガンダを実施している。
 - ② ルマ・アダ・スニ rumah ada seni：パダンにて結成。展覧会やディスカッション、ワークショップ、公共の場でのアートプロジェクトなどを実施している。

調査成果

1. 対象コレクティブの活動内容

- Serrum（ジャカルタ）は他のコレクティブと共同で教育省に提案する新たな教育資源を考えている。彼らが考える教育は単なるカリキュラムに沿う教育ではなく、教室の中で得られない経験や知識・学びを得ることを意味する。また、彼らは他のコレクティブと協働して1つの会社

を形成していて、個人での活動より1つの組織としての感覚を高め、より柔軟な活動がおこなえるように集団での活動を行っている。

- Rumah Ada Seni (パダン) は他のコミュニティや大学生と共同でライブや展示会、ワークショップ、ディスカッション会を行っている。彼らは「思ったことを形にすること」と「社会問題を読み取り、自分の意見を作品で表現すること」を重視している。彼らはスタジオ、ギャラリー、図書館、バックオフィスなどを所有しており、空間機能を持つ部屋でそれぞれのメンバーが有効に作業を行っている。近年は特にエコシステムに関心をもっている。

2. 対象コレクティブの活動の特色

① 集団学習・共同作業スペース

Gudskul (=Good School) という集団学習と現代美術のエコシステムを探究する、ジャカルタの3つのコレクティブ (Ruangrupa、Serrum、Grafis Huru Hara) によって設立された共同学習スペースで企画などを行っている。また、各団体はオフィスは Gudskul の建物内にあり、Serrumは他にも Gudskul と隣接する場所に展示会やプロジェクトのために直接作業を行うスタジオも所有している。



Gudskul の入り口 (報告者撮影)



Serrum の作業スタジオ (報告者撮影)

② 他分野とのコラボ作業

例 1) 宗教+芸術+若者

コロナ以降、地元のスラウ (伝統的イスラーム施設) とのコラボ作業を行っている。スラウでアーティストによるカリグラフィー講座を開催し、特にイスラーム・カリグラフィー作品を展示する。また、アーティストと大学生がディスカッションを行う時間を設け、多様な分野と世代の人が交流できる場を提供している。

例 2) 地元の活性化

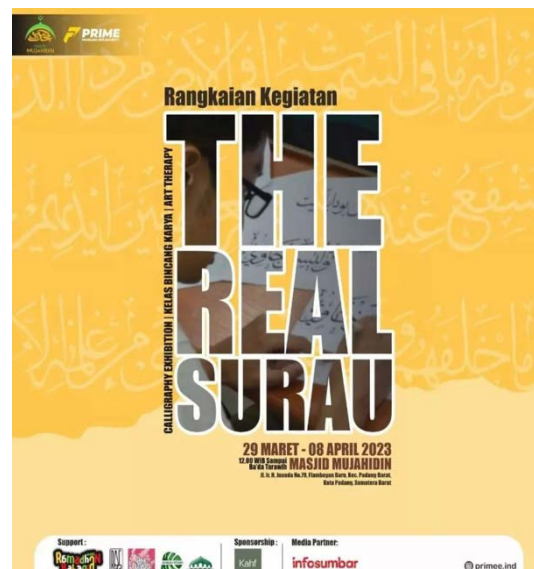
地元の音楽・建築・スポーツ・お祭り・ダンスなどの様々な団地が一つの場所に集まり、それぞれの団体の活動について説明し、ディスカッション活動を行うイベントを企画・開催している。

③ SNS での「発信」で自分たちをアピール

SNS 上に団体の活動内容や展示会の情報、団体の価値観などをアピールするコンテンツを制作し、頻繁に投稿している。また、彼らの「戦略」について「語る」ディスカッション会や一方的な情報発信ライブも頻繁におこなっている。



地域団体とのコラボ企画（RAS インスタグラムから引用）



主教+芸術+若者の展示・ディスカッション会（RAS のインスタグラムから引用）

3. コレクティブの目指す方向性

- ① Serrum（ジャカルタ）は、「互いにサポートし合う、単なる仕事仲間に溜まらない、いわば家族（Keluarga）のような関係だと考えている」と団体の方向性を表現する。彼らは一つの団体に属し、同じ価値観を持って活動している限り、個人のやりたいことが違っていようが同じであろうが、支え合う関係を構築していきたいと言った。また、状況に満足せず、活発な学びを通じて得られる批判的思考を身に付けていきたいと答えた。
- ② Rumah Ada Seni（パダン）は、「私たちは集団の行動戦略（Strategi）として、周りの環境や現状について想像力を育て続けていく」と団体の方向性を表現する。彼らは自分たちが望むことについてメンバーと話し合うことにより、自分たちの心の中の理解度を高めることを重視していると言った。また、これらのことにより、アーティストたちのためのインフラや支援が不足している地元（西スマトラのパダン）を開発していきたいと答えた。

総括

- 一般的に、コレクティブとは社会とつながり、社会改善を目標とすることが求められている。本研究で調査した上記のグループは、「戦略」という言葉を用い、SNS を利用した社会、特に若者への発信力を強めている。彼らは、人々に来てもらう形の受け身として発表から、自分たちの活動をアピールして売り込むスタイルを採用し、集団によるアピール戦略を構築している。現状において彼らの活動は、社会改善というよりは、自分たちの芸術作品の発信が中心となっているが、地元の活性化を念頭において、ジャンルを超える様々な分野と協働活動を行い、自分たちの「戦略」を「話す」ことを重視している。
- 彼らの最初期の目標はメンバーが共に学ぶ場所を作ることであり、学校が終わってからも学びや議論をすることができる場所を作ることであった。また、個人の成長を求め、プロのアーティストになることを目的としていた。それに加えて、現在は多くの人と共に学ぶべきだと気づき、様々

な分野や年齢の人たちと一緒に活動を企画し、社会に対する自分たちの具体的な解釈を作品で表現している。彼らは現状に満足せず、仲間と共に批判的思考を続けることで学びを得ている。

- 彼らが行うイベントや展示会の参加人数を平均すると 100 人程度であり、小規模の際は 50 人程度である。また、イベントの参加者は 20 代から 30 代が中心になるが、10 代や 40 代の来場者もいる。比較的に若い来場者が多い。
- ジャカルタ（首都）で活動を行っている Serrum は、メンバー全員がジャカルタ出身でなく、様々な地域から集まっていた。彼らは、自分たちの思う教育活動や団体を知らせることを目的として活動を行っているとともに、周囲の住民が参加できる学校を開いたり、ジャカルタの他のコレクティブとの共同作業を企画するなどジャカルタを基盤とする幅広い活動を行っている。西スマトラのパダン（地方）で活動を展開している Rumah Ada Seni は、メンバー全員が地元の同じ大学の芸術学部出身であり、地元の芸術インフラを構築したり、地元の環境問題に取り組んだり、同じ大学の後輩たちのための展示会を開催するなど、主に地元のための活動を展開していた。

発表：

以上の結果について、2023 年 12 月 9～10 日に筑波大学で開催された東南アジア学会第 105 回研究大会においてポスター発表をおこなった。

参考文献

- 梅原麻紀. 2015. 『コラボレーションとアーカイブの研究—アーティスト・コレクティブの実践をもとに』（名古屋大学博士論文）
- 江上賢一郎. 2018. 『『ともに集まること』が現実を生み出す—東南アジアのコレクティブについての素画—』『美術手帖』4-5 月合併号:100-101
- 廣田緑. 2019. 「現代美術の新たな戦略: アート・コレクティヴ—アーティストが組織をつくるとき—」『人類学研究所研究論集』6:97-128
- 廣田緑. 2022. 『協働と共生のネットワーク : インドネシア現代美術の民族誌』 Grambooks.
- Darmawan, Ade. 2010. “Fixing the chain of the cycle of ideas” In FIXER: EXHIBITION OF alternative spaces & art GROUPS in Indonesia, edited by Ade darmawan, Budi Karya Sumadi, Rifky Effendy, Mirwan Andan, 14-19. Jakarta: NORTH ART SPACE
- Darmawan, Ade. 2018. “Curating, Collectives, and Conversation” *Art Studies* 4: 55-59.

参考ウェブサイト

- アートスケープ. 「アーティスト・コレクティブ」2021 年 12 月 9 日アクセス
<https://artscape.jp/artword/index.php/>
- アーティスト・コレクティブ アートスケープ. 「アートワード」2021 年 12 月 10 日アクセス
<https://artscape.jp/artword/index.php>
- Tate Modern. “Art Terms” Accessed on December 9, 2021.
<https://www.tate.org.uk/art/art-terms>
- Tate Modern. “Collective” Accessed on December 10, 2021.
<https://www.tate.org.uk/art/art-terms/c/collective>

